

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

牛乳をいろんな形で 楽しんでもらう場所へ

棚橋牧場
棚橋和也さん



棚橋牧場は百年以上続く、地元で愛されている牛乳屋さんです。二〇一六年には直売店「THE MILK SHOP」をオープン。フォトジェニックなカフェスペースで牛乳や、牛乳を使ったスイーツを提供しています。

棚橋牧場の棚橋和也さんに、仕事に対する思いやこだわりを伺いました。

Q:棚橋牧場を継ぐ前は何をされていましたか？

関東の大学を出てから、飲料を売る仕事を四年ぐらいしていました。そのときに物を売ることや、商品を仕入れて売るってことを勉強していたんです。岐阜県に戻ってきて、関市にある関牛乳さんで二年ほど働きました。牛乳についての知識をゼロから教えてもらって、池田に帰ってきました。売るのが牛乳に変わった今も、東京や関市でしてきた経験が生きているのかなと思います。

Q:この仕事を継ぐごうと思われたきっかけは何ですか？

小さい時から自分の両親が働いている姿を見てきたからかな。大学を選ぶときも、両親たちが「牛乳の仕事っていうのは休みも少ないし、朝も早いし、きついことばかりだから自分がやりたいことをやりなさい。」って大学を出してくれました。でも、仕事を探すときに全部ピンと来なくて。せっかく長く続いている牛乳屋さんを自分の代も続けたいなと思いつめた。

Q:池田にカフェを開こうと思ったのはなぜですか？

棚橋牧場が百年続く中で、ほとんどの時間は池田町の人に支えてもらったというか、池田町に住んでいる人に飲んでもらったからずっと続けて来たんだなと思います。だから、池田町がやっぱり一番大事な場所でもあるんですね。まずは池田町で今まで通り地元の人にたくさん飲んでもらって、地元が一番の基地を作っていききたいんです。今後は、もっと人がいるところのパッケージを少し変えてみると、お客さんがすごいそこに反応してくれたんです。だからみんなも自分がデザインした自分だけの牛乳瓶ができたらうれしいだろうし、愛着がわくだろうな。そういうことをやる会社だったり、そういうことをやる牛乳屋さんに対して、この牛乳屋さんおもしろいなと思ってもらえたり、ファンになってくれるお客さんが増えるといいなと思って企画しました。

Q:オススメのメニューを教えてください。

オススメは、この揖斐郡でつくられた抹茶を使った抹茶ミルクですかね。あとは、暑い時期にやっているかき氷も。牛乳を使った手作りの練乳をたくさんかけて提供していて、とても人気があるメニューです。あと、遠くから来てくださった方はまず瓶の牛乳を飲むので、それをすこく「おいしいな」とか「懐かしいな」って言ってくれますね。

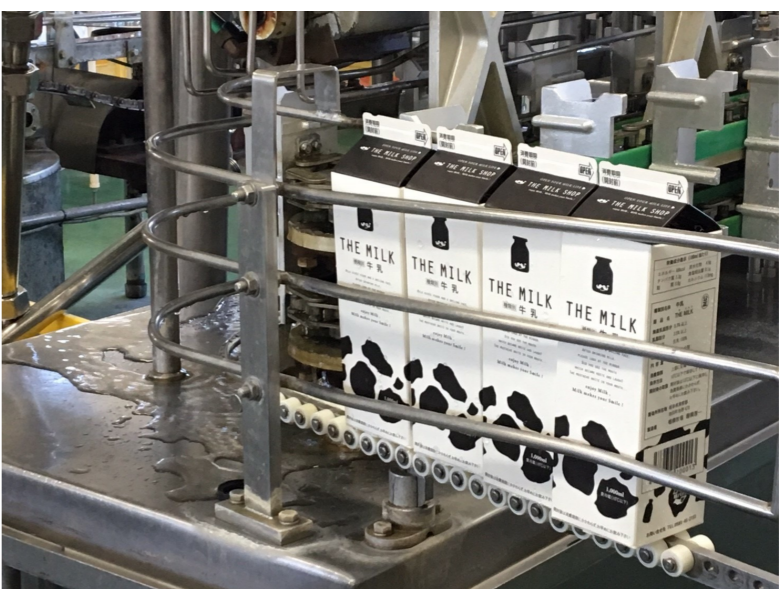
Q:どんな時にやりがいを感じますか？

やっぱり飲んだお客さんに目の前で「おいしかった」とか「おいしい」って言ってもらえた時にやりがいを感じます。あとは、幼稚園の夏祭りに呼ばれて行った時にほんと小さい子が、すごく喜んでくれるんです。学校給食にもずっと携わっている仕事なので、子供とかの喜ぶ顔とか、おしいって言うってくれる声とかがとてもうれしんですね。学校によっては年に一回「牛乳屋さんへ」って書いて手紙をくれるところもあって、そういうのをもらうとすごいやりがいを感じます。

Q:今後の夢があったら教えてください。

やりたいことがまだ半分くらいしかできてないんですよ。工場の中とか案内する工場見学も。今、夏休みとか学校が長期の休みに入ったとき、一回か二回は子ども達を募集してやっているけど、本当はもっとたくさん工場見学もやりたいです。カフェを使って、牛乳

ろにたくさん売りに行くかもしれないけど、まずは池田町で今まで通り頑張りたいっていうのが池田にお店を開いた一番の理由です。



Q:地元の人に愛されている棚橋牧場の牛乳へのこだわりを教えてください。

新鮮さと製法です。棚橋牧場では、牛乳をしばってから二日以内に瓶詰めやパック詰めをして飲む牛乳にしています。

もう一つは牛乳って絶対殺菌をしなきゃいけないんですけど、その殺菌する温度と時間を80℃で15分間保持するという方法にしていることです。殺菌の温度が違うと牛乳の風味とか味が少しずつ変わってくるので、そこもこだわりの一つなんです。温度がもっと低いと、サラッとした牛乳になるんですよ。スーパーで売られている牛乳は効率の良い大きい機械で大量につくられているので値段は安くなるけど、棚橋牧場のよ

でアイスクリームを作ったりも。今まではシーズンに一回か二回とかしか出来てないんですよ。やっぱり一回に出来る人数も限られてるのもっと牛乳を使っ

て楽しめるような企画をここでたくさんやりたいです。そして、もっとたくさんの人に牛乳ってこんなこともできるんだということを楽しんでもらえる場所なるようにしていきたいと思えます。

うに昔から作っている牛乳はどうしても値段が少し高くなってしまうんですけどね。

Q:池田に開いたカフェへのこだわりを教えてください。

はい。一番は牛乳をいろんな形で楽しんでもらう場所っていうことですかね。なので、普通のカフェとはまた違うかな。思いも違いますし。でも、やっぱりここは牛乳屋さんがやっているカフェということ、メニューのほとんどに牛乳をつけています。企画でアイスクリームを作ったりもしています。毎年やっているのは、無地の牛乳瓶に自分で好きな絵を入れてオリジナルの牛乳瓶を作るっていう企画ですね。このカフェでしかできないことだし、ここだからこそやる意味があって。そして、その作ったオリジナルの牛乳瓶に新鮮な牛乳を入れてお渡ししています。そういう牛乳を楽しんでもらうっていうことにこだわっています。

Q:オリジナル牛乳瓶作りなどの企画を思いついたきっかけはありますか？

これはね、牛乳を池田町の外に売りに行くときに、瓶



【感想】

棚橋さんのお話の中で、たくさんの人に牛乳を楽しんで貰いたいという気持ちが強く印象に残っています。わたしは取材前にオリジナル牛乳瓶作りに参加したことがありますが、あのイベントにも沢山の想いが詰まっていたことを知り、更に棚橋牧場さんのファンになりました。そして、今回のプログラムを通して礼儀や敬語、仲間と協力することの大切さなどを学ぶことができたので、この経験を自分の将来に生かしていきたいです。

